

ハリスコ州投資セミナー

2014年11月10日

11月7日、ハリスコ州アリストテレス・サンドバル・ディアス知事の日本実務訪問の一環として、メキシコ大使館「エスパシオ・メヒカーノ」において、プロメヒコ主催、当大使館後援によるハリスコ州政府セミナーが開催され、25社を超える日本企業が参加した。

開会の辞では、サンドバル知事による今回の日本滞在が、二ヵ月前に実施された同州のビジネスミッション訪日のフォローアップとして行なわれること、ハリスコ州が日本の存在及び日本から同州へ行われる投資を重視していること、そして同州が投資増加へ多大な関心を有していることなどが語られた。連邦政府と国内各州政府は、近年、日本でのプロモーション活動を強めており、過去一年間に全土を構成する32州の1/3にあたる11州の政府代表団が訪日するまでになっているが、サンドバル知事らの訪日もこれらの活動のひとつとして位置づけられるものである旨が述べられた。

さらに、墨日関係は我が国にとってアジア地域における最重要かつ意義あるものである点も強調された。その証左として、政権発足から18ヵ月間で5回に及ぶペニャ・ニエト大統領と安倍晋三首相との会談、をあげることができる。メキシコと日本の関係は、年間貿易額合わせて約220億ドルを記録し、日本からの対墨投資もほぼ80億ドルにのぼるなど現在非常に良好な状態にある。そして、既にメキシコが提供する多くのチャンスやインセンティブ等を活用する形で800を超える日本企業がメキシコに投資を行なっている。



セミナーの中で、サンドバル知事からは、ラゴスデモレノ市をはじめとする同州の魅力、すなわち絶好の地理的ロケーション、治安の良さ、道路・鉄道・港湾・空港等各種インフラ整備の充実、コネクティビティ、高い教育レベル、専門性を有する労働力、高い生活水準、また、この度エルバヒオ自動車センターに新設されたコリナス・デ・ラゴス工業団地について語られ、ハリスコが日本からの主要投資先となるよう取り組んでいく意思が表明された。

さらに、ホセ・パラシオス・ヒメネス経済発展局長がハリスコの提供する利点に関し情報を付け加えた後、同州に進出した日本企業（大同メタル）やコリナス・デ・ラゴス工業団地の情報をまとめたビデオ2本が上映され、質疑応答が行なわれた。

本セミナーは、サンドバル知事、7名の同州政府職員、2名のコリナス・デ・ラゴス工業団地代表で構成されるミッションの4日間にわたる精力的な政治・経済・文化関連活動を締めくくるものであった。訪日中、知事らは、東京、名古屋、大阪の三都市においてそれぞれセミナーを実施したほか、16の日本企業と会合を行った。

ハリスコからの訪問団も、これまで訪日した他州からのビジネスミッションと同様、活動のスタートとして、11月4日、アルマンド・アリアガ臨時代理大使他メキシコ経済省、観光局、農務部、商務部の各駐日代表と連絡会議を開いた。その中で、大使館側からは同ミッションの成功に必要な協力がなされ、出席者は日本で行なう諸活動、二国間関係、経済状況などについて話し合った。



ハリスコ州投資セミナー参加者